

手を握らずに親と子



令和4年2月 発行: 登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No6

父親・母親に子どもが求めるものとは

【子どものころに読んでいたマンガのお話】

主人公はお酒に酔って上機嫌で帰ってきた父親に、前から欲しかった自分専用の新しいテレビをおねだりします。すると、急に「子どもがいつまで起きているんだ!」「このごろ成績が落ちてるぞ!」と、怒鳴られてしまうのです。

「大人は勝手だ!」「自分は将来、優しく理解力のある父親になるぞ!」と、決意します。そして、立派な父親になっているはずの自分の姿を見るために、タイムマシンに乗って未来へ出発します。

しかし、そこで彼が目にしたものは、お酒に酔って帰宅し、妻や子どもを困らせている自分の姿でした。



【みなさんの子ども時代の『理想の大人』とは、どのようなものでしたか?】

なりたい“理想の父親・母親像”はあるのに、仕事や家事、子育てに追われて思い通りにいかないときもあるかもしれません。

「ああ～、なんであんなことくらいで、怒ったんだろう・・・。」「私はダメな親なのではないか・・・。」と考えてしまい、気持ちが落ち込んでしまった経験もあると思います。

真剣に向き合うからこそ、子どもへの接し方が難しいときがあります。

理想と現実のギャップに苦しみ、子育てが楽しめていない人もいるかもしれません。

子どもにしてあげたいこと



親として〇〇しなければ...

これでは、子育てに対する義務の意識が強くなり、気持ちが重くなってしまいます。

【“どのような大人になりたかったか”

“どういった親になりたかったか”】

心のタイムマシンに乗って子ども時代に戻りましょう。お金や時間に限りがあることや、世間体にしばられずに、純粋な感情で子どものころを思い出すことが大切です。

大人になったら → 「病気の人を救う医者になりたい」、

「サッカー選手になりたい」

親になったら → 「子どもと仲良くケーキを作りたい」、

「日が暮れるまで公園で一緒に遊ぶぞ」



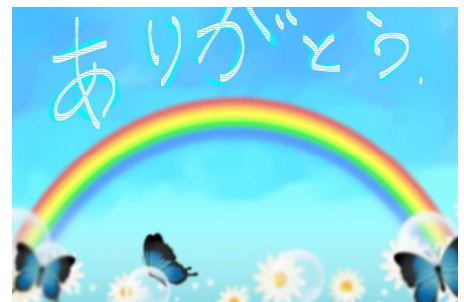
【大人(親)になったら】

子どものころに思い描いた夢や目標は無限大だったことでしょう。

でも、実際に大人になり、子どもを育てていくと、「子どもの夢や目標は、実現できるのか?」、「生活する上で役に立つのか?」と、大人の価値観で子どもの言動を制限してしまいがちです。それゆえ、子どもに『〇〇しちゃだめよ』と禁止したり、『〇〇しなさい』と命令したりすることもあるでしょう。こうした大人の言動は、子どもに反抗心を抱かせることや、自信を失わせる可能性もあります。

「お母さんは、あなたが危険な遊びをしてケガをするようなことがあったら、悲しいのよ。」「お父さんは、きみに手伝ってもらえると嬉しいな。」など、『わたしは』を主語にして親の気持ちを伝えてみてはどうでしょうか。

また、大人から子どもにも、素直に『ごめんね』や『ありがとう』と、言えると良いですね。



◎子どもが父親・母親に求めるものは、すべてが完璧ではなくても…

『自分を信頼してくれて、いつも一番の味方でいてくれる存在』

◎嬉しい気持ちや悲しい気持ちなど…

『想いを共有してくれる存在』

すなわち、ありのままの自分を受け入れてもらうことを求めているのではないのでしょうか

みなさんのこれからの行動が、子育てや親子関係を変えていきます。
そして、その変化は未来をより良いものにしてくれるでしょう。